



さくらっこ!



戸塚区青少年指導員協議会は



目次

P. 1…みんなと同じじゃなきゃいけないの? / P. 2・3…“コロナ”で変わったこと 得たこと (緊急アンケート)
P. 4…やってみよう! パラスポーツ特集! / 活動紹介・2021年度 上期行事・2021年度 下期行事 (予定)

No.22

子育て ワンポイント!

みんなと同じ じゃなきゃいけないの? *****

「多様性」という言葉が広く使われるようになりました。

お互いの価値観や考え

方を含む、それぞれ個人の違いを認めて、お互いを尊重する姿勢や心構えです。人それぞれ違っていてもいい、人それぞれ違って当たり前なのですから。

しかし、皆と一緒に協力して何かをやろうとしている時に「嫌だ」と言われると「わがままを言わないの」と叱りたくなりませんか? 学校に行きたくないと言われると「みんな行っているんだから、行くのが当たり前」と言いたくなりませんか? 「人と同じにしないとダメ」と「人と違ってても良い」の区別はどこでつければ良いのでしょうか。

「個性 (個の音色)」と「集団の調和 (ハーモニー)」の観点から考えてみましょう。

例えば、木管楽器のクラリネットと金管楽器のトランペットには音色に違いがあります。同じ音階を鳴らしても音色が違います。クラリネットだけで奏でる「同じ音色」の楽曲よりも、クラリネットとトランペットの合奏による「異なる音色のハーモニーが心地よい」と感じたら、それはクラリネットとトランペットの音色の違いを知った上で、その音色の特色を生かせる楽曲が選ばれたからでしょう。

管楽器と弦楽器、さらには打楽器。それぞれの音色などの違いを認めた上で、それぞれの特色を生かせる楽曲を選んだり、新たに作曲したりすることで、それぞれ個の楽器



だけで演奏するよりも壮大で美しい音楽が奏でられます。

つまり、集団の方向性を決めるために、まずは「個性」を尊重し、方向性が決まれば「集団の調和」を尊重する。

「一緒に協力して何かをする」、その何かを決めるまでに、反対意見はないか、違う考えはないかと十分な話し合いが必要です。「学校に行きたくない」というその理由を、自分の価値観をいったん脇に置いて、まずは聴くことが大切です。



注意が必要なのは、「暗黙のルール」に慣れてしまっている人たちが多くことです。周りの意見に自分の考えや行動を合わせるが良いことだと、つい思いがちです。本当は納得していなくても、仲間外れになることを恐れて、つい周りに合わせてしまう。これは「調和」ではなく「同調」です。つまり「集団との同調」が重要視され過ぎて「個性」の尊重がないがしろにされてしまっているのです。しかもそれが当たり前と思っている大人たちが多くことに、私たち自身が気付かなければなりません。クラリネットの子どもに向かってトランペットのように吹きなさいと強要してはいませんか? もうそういう時代は終わったのです。

「当たり前」「普通」「当然」と思うことを「それはなぜ?」と、もう一度考えてみましょう。安易に「同調」することで、本当の「調和」を得る努力を怠ってはなりません。

そのためには、自分と異なる考え方や意見にこそ耳を傾けましょう。自分と違う言動に注目してみましょう。認めることは賛成でなくてもいいのです。お互いの違いが分かるからこそ「調和」に近づくことができます。

一人ひとりの異なった人たちが、一つの同じ目標に向かってそれぞれが生き生きと努力する。美しい集団のハーモニーが聴こえる。そんな社会の中で子どもたちの成長を見守っていきたいですね。